

講演：「スポーツにケガはつきものか？ — 『見える化』活動の成果報告 —」

講師：名古屋大学大学院教育発達科学研究科准教授

内田 良 氏

I 子どもの「安全」にいかにかアプローチするか 「リスク」の視点から

危険は無限

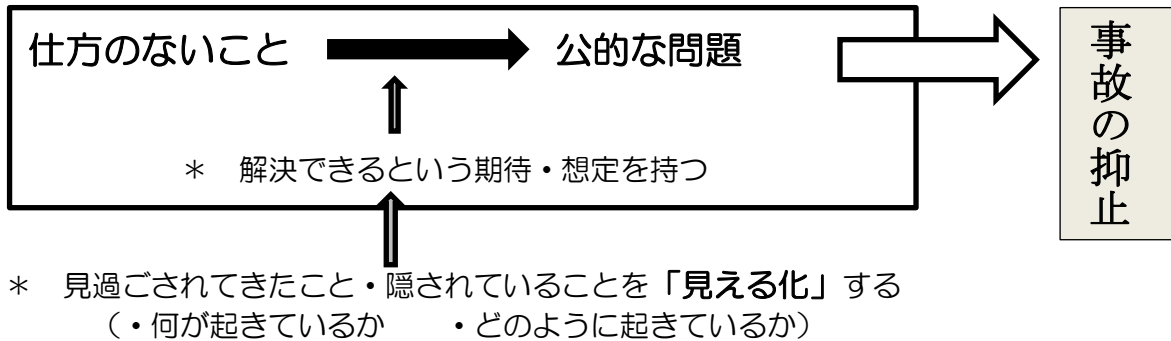
資源（ヒト・モノ・カネ）は有限

と考える



☆ 転落事故・不審者・交通事故・柔道の事故・野球の事故・遊具の事故・熱中症等、危険は無限にある。これらに優先順位をつけながら、有限の資源を振り分けることが大切。

II 「仕方のないこと」から「公的な問題へ」



事例：学校柔道で過去 31 年間に 118 件の死亡事故があったが、大きく報道されることにはつながらなかった。隠されていたことをカードに書き起こし「見える化」したことにより、柔道事故に焦点が当たり、「柔道の安全指導 第3版」※に「重大事故に直接結び付くと考えられる頭部・頸部のけがの予防」が明記された。 ※発行元 全日本柔道連盟

私たちの脳は先入観ばかりで、様々なことの内側を見ようとしない。
目の前のことを「見える化」して、アクションを起こしていくことが
事故の防止につながる。

III 頭部外傷の新しい発見

☆ 頭部外傷（脳震盪を含む）の繰り返し“繰り返し脳損傷・セカンドインパクト症候群”は、致命傷となることがある。 → 繰り返しは防ぐことができる。

☆ 頭を強く打っていないなくても安心はできない。

※頭部に直接衝撃がない場合でも、脳を強く揺さぶられることにより脳損傷が起こりうる。頭部外傷の多くは頭に大きな衝撃が加わって起こるものだが、直接頭を打っていないなくても脳損傷をきたす可能性がある。

◆頭部外傷に関する参考情報

(Web 上で見ることができる)

- ① 頭部外傷 10 か条の提言
- ② 柔道の安全指導第 3 版 (全柔連)

IV 教育的価値が見えなくさせるもの — 組体操事故から考える

☆ 組体操は学習指導要領に記載がないにもかかわらず負傷事故が多く起きている。また、組体操は頭部・体幹部（とくに頸部・腰部）のけがの割合が高く、受傷後の生活に大きな支障が出る。

低い段数・基本技をいかに安全に指導するかがポイント！！

V 「見える化」なくして再発防止なし

☆ 事故はなぜ起きるのか → 私たちが事故を見ようとしないから

「見える化」が安全を導く！！